

水道施設

耐震化への取り組み

岡市企業局水道企画課

☎088-685-3300

老朽管の更新

現在、市の水道管路総延長約560^キのうち、耐震適合性があるのは約409^キで、耐震適合率は約73%となっています。

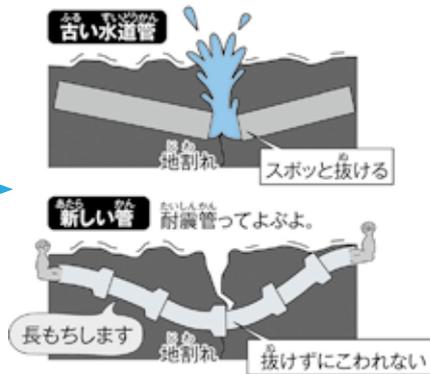
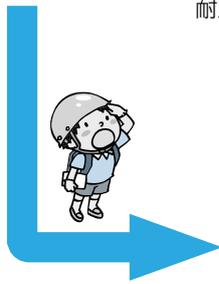
市が行っている老朽管更新事業では、水道管として耐震性能が特に劣る塩化ビニール管(TS継手)と铸铁管を、耐震性能を有するダクタイル铸铁管(写真・画像参照)に更新することで、管路破損事故などを減少させ、水道供給の安定化を図っています。

当事業の計画期間は平成21年度から35年度までで、計画総延長は約57^キとなっています。26



耐震管つり上げ実験の様子

年度末時点での進捗率は約35%となっており、約20^キが耐震適合性を有する管に更新されました。



写真・画像提供：(一社)日本ダクタイル鉄管協会

市の水道普及率は99.9%となっており、水道は市民生活や社会経済活動にとって不可欠のライフラインとなっています。そのため、地震などの自然災害に対して、水道施設の安全性確保や給水の確保、さらに被災した場合でも速やかに復旧できる体制の構築など、耐震化への対策が必要です。

今回は、その主要な取り組みについて紹介します。

市浄水場の更新

国土交通省は、旧吉野川流域で堤防工事を行っています。この工事を進めていく中で、浄水場の取水施設が工事の支障となることから、取水施設の改築工事が国土交通省により行われています。今年度中に完成が予定されている新しい取水施設は、耐震性能を有し、災害に強い施設になります。



建設中の新しい取水施設

また、浄水場内の浄水処理施設の多くは昭和40年代後半から50年代前半に建設され、耐震性能は低く老朽化が進んでおり、災害に強い浄水場への更新が必要です。

市では、学識経験者や水道使用者などから意見を聴きながら、浄水場更新の基本的な方針を決める作業を進めています。

平草配水池築造事業

昭和37年度に建設された平草配水池を、ステンレス製で耐震性を有した容量2千立方メートルの配水池に更新しています。この配水池は、緊急遮断弁を設置しており(本市では2例目)、大規模災害などで破損した水道管から水の流出を抑えることで、応急給水時に重要な水源となることが期待できます。



建設中の平草配水池

水道施設の耐震化には多額の費用が必要です。一方で、過去の拡張期とは違い、今後は人口減少とともに給水収益も減少することが予想されます。

こうした中、市民の皆さんに災害時でも安全・安心な水道水をお届けできるよう、水道施設の耐震化を計画的に進めていきます。